



# 六が夢中!

## 『二中の紫桜祭（文化祭）！？』

先月は、体育祭について話をさせていただきました。今月は、二中の4大祭の紫桜祭（文化祭）についてのお話です。（実は昔、第二中学校では、興風会館で紫桜祭を行ったことがあります。）

二中の紫桜祭では、午前の部に「合唱コンクール」を行いました。小学校では「歌声発表会」という名の行事がそれにあたるのではないかと思います。各学級や学年で音楽を楽しみながら、発表しあい、お互いを高めあい、豊かな感性や心を育むといったところでしょうか。

中学校の合唱では、ソプラノ・アルト・テナー・バスの4つのパートに分かれ、さらに難しくなります。しかし合唱を通して各学級の団結力や絆を深めたり、うまくいかないことがあっても最後まで目標に向けてあきらめずに努力することなどを目的に、「最優秀賞」を目指します。

「しかし」「なぜか」うまくいかないことが多いんです。なかなか音がとれなかったり、パートのバランスが、ハーモニーが、強弱が・・・だんだん暗い雰囲気になり、学級はまとまるどころか、気持ちがバラバラになってしまい、指揮者やピアノ伴奏者の頑張りも・・・。

さて、そんな時「あなたならどうしますか？」

何でも人のせいや、周りのせいにしてしまえば、あきらめもつくし、しかたがないと自分自身をなぐさめることもできます。でも、それで本当によいのでしょうか。

それをすべて乗り越えて、一人一人の頑張りや学級の団結力で素晴らしい合唱をクラスで作り上げたとき、今までにない達成感や周りの人たちに「感動」を与えることができます。そしてその喜びは、大人になってもいつまでも忘れずにいることでしょう。

だから「学校行事」があるのです。行事を通してつらいことも、頑張らなければならないことも、自分の思いどおりにならないことも、それをすべて打ち破って物事を成し遂げたときの喜びと感動、そしてその経験が自信となり、将来自分の人生にとても役に立つことと確信しています。

（第二中学校 校長 石垣）

### ☆3年生からのメッセージ『合唱コンクールを終えて』です。（出身小学校・名字イニシャル）

今回、私のクラスは「ヒカリ」という曲を選びました。暗い雰囲気の曲なので、迫力を出すことや強弱を付けることに苦戦しました。私は、練習の途中に左手を壊してしまい、悔しい思いをしたけれど自分のできることを精一杯頑張れたと思います。練習をひたすら積み重ね、迎えた本番は、冷静にいつも通り弾き終えることができた感じています。

賞は取れなくて悔しかったけれど、努力や協力することの大切さを改めて強く感じられたので、学びを得て、精一杯楽しめた合唱コンクールでした。

（宮崎小・M）

合唱コンクールは、各クラスで1つの曲を一丸となって作り上げ、優秀賞・最優秀賞を巡って全校で競うという行事です。私たち3年生は、今回が中学校生活最後の合唱コンクールとなりました。練習では、パートごとの音程だけでなく、全体のバランスにも気を配りながらクラス全員で協力して合唱を作り上げることができました。残念ながら賞を取ることはできませんでしたが、クラスの仲は、一段と深まったと思います。この合唱コンクールでの経験を活かし、残り少ない中学校生活を大切に過ごしていきたいです。（中央小・K）

合唱コンクールを終えて、すごく「ほっ」としました。私は歌声委員であり、指揮者という責任があったからです。練習では、声が出ていなかったり、真面目にやらない人がいたりして、クラスの雰囲気は悪化する一方でした。この状況を打開するために私は、自分ができる限りの行動をし続けました。本番が近づくにつれ、クラスのみんなが声を出して集中するようになり、クラスのみんなが変わっているのが分かりました。本番では、いつも以上に声を出して、歌に真剣に向き合ってくれたことがすごく嬉しかったです。残念ながら賞を取ることはできませんでしたが、みんなが一生懸命に頑張ってくれたので、後悔はありません。思い切って行動するのが大切な学ぶことができました。

（中央小・H）

私は合唱コンクールで、歌声委員として活動しました。最初自分のクラスは、他のどのクラスよりも練習を始めるのが遅く、練習の質もとてもじゃないけど、良いとは言えない状況でした。それでも自分は、今まで一度も合唱コンクールで賞を取ったことがなく、「今回こそ取ってやる」という意地で指揮者、伴奏者、パートリーダーと協力して、クラス一丸となって練習に取り組むことができました。

合唱コンクールでは、学年優秀賞を取ることができ、泣くほど嬉しかったことを覚えています。みんなで団結した経験を受験などに繋げていきました。

(中央小・T)

今年最後の合唱コンクールでした。昨年の合唱コンクールでは、賞を取ることができなかつたので、「今年こそ賞を取る」気持ちで合唱コンクールに臨みました。そして、今年は指揮者にも挑戦しました。学級での練習は思うようにいかず、「正直賞を取るのは厳しいな」と考えていました。

しかし、ある帰りの会の先生の話で、「本気で取り組むことの大切さ」を涙ながらに話している姿をきっかけにクラスの考えが変わっていきました。

その結果、優秀賞と指揮者賞を取ることができました。「本気で頑張ることは、決して恥ずかしいことではない」という大切なことに改めて気付かされた合唱コンクールでした。

(宮崎小・K)

中学校生活最後の紫桜祭で私は、指揮者として頑張ってきました。最初に全体で合わせた時は、パートの音もバラバラで声量も小さく、紫桜祭までにうまくまとめられるのか心配でした。練習をしていくうちに各パート声が出るようになり、音も合ってきました。しかし、本番1週間前からピアノ、指揮、歌がバラバラになってしまい、次第に合わなくなっていました。このままだと最優秀賞どころか優秀賞も取れないと思い、何度も話し合いをし、指揮も強弱がわかるように改善しました。そうするとだんだん合っていき、本番でも緊張したけれどみんなで力を合わせ、無事最優秀賞が取れて、みんなで「本気（マジ）」で頑張った紫桜祭が、とても良い思い出になりました。(中央小・M)



私は3年間、伴奏をしてきました。1・2年では、合唱コンクールで全て賞を逃してしまっていたので「今年こそは」と頑張ってきました。クラスのパート練習では、音取りの人があまりいなくて、クロムブックを活用してたくさん練習しました。私たちが歌った「青い鳥」は、ソプラノの音がとても高く、テノールに声の大きさが負けてしまってどうしようもないときがありました。担任の先生が私たちに本気の思いを話してくれた後、クラスの団結が更に高くなり、全員が曲と向き合って歌いきることができました。

結果として、学年優秀賞を取ることができました。努力は裏切りません。皆さんも努力を惜しまず頑張ってください。

(中央小・I)

私達のクラスは「信じる」という曲を歌いました。この曲は速度や曲調が大きく変化するところが多く、最初はクラス全員で息を合わせることが難しく大変でした。練習していく中で私は、伴奏者として各パートや全体へのアドバイス等を積極的に行いました。また、クラスの皆で良いところや改善点を話し合ったり、自分たちの歌声を聞いたりもしました。様々な方法で練習していくうちに、ついに学級全員の歌がそろうようになりますとも嬉しかったです。合唱コンクール本番、私達は、練習の成果を全力で出し切り、全校最優秀賞を頂くことができました。「このクラスで歌えて良かった！」と本気で思いました。中学最後の合唱コンクールは、私の中で忘れられない思い出になるでしょう。

(宮崎小・K)

私のクラスは、今回の合唱コンクールで全校最優秀賞を取ることができました。2年間歌声委員をしていて、ずっと取りたいと思っていた賞なので、とても嬉しかったです。

本番は、クラスのみんな緊張していて、顔がこわばっていました。それでも歌はとても良くて、終わった後にすごく安心しました。中学校へ入学してから小学校の頃とは全く違う雰囲気の合唱コンクールで、歌への思いも強くなるので、二中に来る児童の皆さんには、合唱コンクールを楽しみにしてほしいです。

(宮崎小・M)

